東海大学付属大阪仰星高等学校・中等部
校長　塚野 直樹

令和7年度　学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 中等部創立 29 年、高等学校創立 42 年の歴史と伝統を受け継ぎ、「建学の精神」のもと、将来我が国の有益な社会の形成者、また、世界にはばたくグローバルリーダーを輩出する。
2. 生徒一人ひとりを大切にし、学問に対する興味・関心を深める授業を行い、生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を進める。
3. 生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、「高いレベルの文武両道」の文化を根付かせ、SDGsの視点を踏まえ、学校行事や委員会・クラブ活動・ボランティア活動等などへ積極的に参加し、自らの意志と努力で中学高校生活の創造を目指す。
4. 生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。

2 中期的目標

(1)学習指導の強化と改善

文武両道の進学校として成果を上げるためには，生徒が目標に向かって主体的・意欲的に取り組み，学習の理解度・達成度を高めることが重要となる。そのため全教員は，教員主導型から学習者中心型および個別最適化された授業への改善を進めるとともに，上級学校（高校・大学）の入試問題を研究・熟知し，より効果的な授業の提供に努める。

①研究授業・公開授業・授業見学を活性化し，学校全体の授業力向上を図る。（研究部）

②探究授業の充実に向けて，他校訪問などを通じて研究を進め，活動のレベルアップに努める。（探究科）

③高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し，校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストの今後の方向性についての情報収集を行い，教職員・生徒・保護者への十分な情報共有を行うとともに，校内での指導の徹底を図る。（進路指導部）

④各教科等で観点別に「目標に準拠した評価」が適正に実施されるよう，シラバスに評価計画を実装し，シラバスを拠り所とする学習指導と学習評価を進める。評価計画とは，評価項目とそれぞれの項目について観点ごとの評価規準・基準（ルーブリック）を定めることである。（教科・教務部）

⑤ICTを活用した授業のさらなる充実を図るために，校外研修会への参加とフィードバック，研修等を実施し，授業改善に取り組む。また，生徒の情報モラルの醸成に努める。（情報管理室・情報科・生徒指導部）

⑥学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき，英語教育に取り組む。一定の目標値（資格やスコア取得）を設けて達成する。また，大学教育との連続性も視野に入れ，授業や教授法についても検討する。（英語科）

⑦英語スピーキング・ライティング能力の伸長のために，ネイティブ教員と協働し，またアウトソーシングも含めさらなる効果的な指導方法を検討し GTEC でその効果を検証する。（英語科）

⑧学園「お・た・わプロジェクト」の方針に基づき，学校を挙げて理科（数学）教育に取り組み，理数系進学希望者の増加に努める。（理科・数学科・探究科・研究部）

⑨大学入学共通テストにおける出題傾向を十分に研究し，「思考力・判断力・表現力」を養成するため，低学年次からの指導に反映する。（教科）

⑩3観点評価がより充実したものとなるように，各教科において議論・検討を進める。特に「学びに向かう力・人間性」の評価手段の一つとして「パフォーマンス課題」の実施について検討する。（教科）

⑪中高一貫校として，学習面におけるより効果的な中高連携策を模索する。（中等部教務部）

⑫「現代文明論研修の旅」がより深い学びの場となるように，探究科と協働し，本校の探究学習の中間発表を大学で行うなどさらなるバージョンアップを模索する。（研究部・探究科）

(2) 進学実績の伸長

①授業改善と生徒一人ひとりのレベルに合った授業の展開を通じて，生徒の学力伸長を図り，進路実績の向上へと繋げる。大学進学における達成値を以下の通りとし，その達成に全力を挙げる。特に総合進学コースにおいては摂神追桃以上のレベルの大学への進学保証を実現する。（全教職員）

【全コース】東海大学：50 名

【英数特進コース】国公立大学：現役 30 名、関関同立：現役のべ 60 名【総合進学コース】関関同立：現役のべ 60 名、産近甲龍：現役延べ 150 名

②東海大学への進学者の増加を図るため，早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ，各学部への入学を見越した進学指導を行う。（全教職員）

③毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し，教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また，大学入学共通テスト，国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。（進路指導部・教科）

④進学実績の向上（東海大学への進学・指定校推薦の活用等を含む）の面からも，理系進学者を増やすことは喫緊の課題である。この実現のため，学年・教科等と協働し，その具体策を検討する。（進路指導部）

(3)高いレベルのスポーツ・文化活動の維持

①クラブ活動，学校行事等の意義を十分踏まえ，予算・施設の効率的な活用，人的措置等を考慮すると共に，学業と両立しながら活動の活性化を図る。（生徒指導部）

②文化的な活動の振興に努め，外部への積極的発信と星河祭の質的向上を図る。（生徒指導部）

③ビブリオバトルの活性化に向け，読書会や他の活動と連携しその具体策を検討する。（メディアセンター）

(4)SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携

生徒会・GAfSS・SDGs 委員を中心として，地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し，学校内で SDGs の達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。（生徒指導部）

(5)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実（生徒募集対策室）

生徒の定数確保に向けて応募等の広域化を推進するため，地域・保護者等からの本校教育活動への意見を踏まえ，生徒募集等の組織的な取組を行う。

①入試イベントをさらに充実させ，中学校・塾と十分な連携をとる。

②入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ，組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。

③ホームページ・SNS 等を活用し，より的確な情報発信に努め，効果的な広報活動を行う。

④保護者や小中学生を対象とした公開授業，中学生の体験授業を実施する。

⑤中等部受験者確保のため，早期学校説明会（学校紹介）の実施や塾訪問のあり方を見直し，全教職員によるより積極的な募集活動を展開する。

⑥本校の入試イベントにおいて，学校 PR を行う組織作りを通じて，在校生がより積極的に関与できる仕組みづくりを行う。また，学校説明会に本校の保護者に参加してもらうなど，保護者会と連携して募集活動を行う。

⑦枚方・交野市内の中学校を対象とした「合同授業見学会・説明会」の開催を検討する。

(6)環境・安全・健康に配慮した学校づくり(健康推進室・安全衛生委員会)
①防災・防犯，健康づくりに対する行動計画を策定し，実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。
②教育活動における事故を未然に防ぐために細心の注意を払う。万一事故が発生した場合は文科省「学校事故対応に関する指針」に基づき，適切に対応する。
③教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし，カウンセラーなど関係機関との連携を図り，安心して学校生活が送れるようにする。
④教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。
⑤多様化する配慮・支援をより適切に実施するために，特別支援教育コーディネータの任命を検討する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】
中等部・高等学校生徒を対象にそれぞれ 36・40 項目の学校評価アンケートを実施した。また、中等部保護者・高等学校保護者を対象には 27 項目の評価アンケートをそれぞれ実施した。更に中等部教職員・高等学校教職員対象にはそれぞれ 45・49 の項目のアンケートを実施した。以下は、上記中間目標に符合する質問項目とその評価平均点(最高点 5.0)推移を示したものである。(　　)内の数字は 2024 年度から 2025 年度への評点の変化を示している。

自己評価アンケートの結果と分析[生徒・保護者・教職員対象:令和7年 12月実施]	学校評価委員会からの意見
(1)学習指導の充実・改善 〇生徒(2024 年度→2025 年度) ・授業への意欲:(中)4.3→4.1、(高)4.3→4.2 ・授業を通した学力向上:(中)4.1→4.0、(高)4.0→4.0 ・学習面の指導・サポート:(中)3.9→3.7、(高)4.0→3.9 〇保護者　授業を通した学力向上:(中)3.6→3.6、(高)3.5→3.6 【分析】授業に意欲的に取り組む生徒の評価は中高とも4点台を維持した。一方、中等部では意欲・学習支援の評価が低下しており、個々の学習状況に応じた支援と授業改善が必要である。学力向上の実感には生徒と保護者の間で差が残るため、学習成果の可視化と家庭への情報共有を進める。 (2)教育課程・教育条件の整備 〇生徒　学校の特色への満足:(中)4.2→4.2、(高)4.2→4.1 【分析】コース制や中高一貫教育等への評価は引き続き高い。学習者の多様なニーズに応じた教育課程の点検と、教育内容の丁寧な周知を継続する。 (3)進路指導と東海大学への理解 〇中等部生徒　東海大学への理解:3.6→3.3 〇保護者　東海大学に関する情報提供:(中)4.0→4.1、(高)4.1→4.2 【分析】保護者への情報提供は改善しているが、中等部生徒の大学理解は低下した。大学との連携行事や学部紹介、進路学習を通じて、発達段階に応じた理解の促進を図る。 (4)中高一貫体制の充実 【分析】学習指導・クラブ指導・業務・人的交流の各面で中高連携の状況を点検し、教職員間で課題と実践を共有する。なお、アンケートの項目別結果に即した継続的検証が必要である。 (5)文武両道・学校行事・読書活動 〇生徒　校風への満足:(中)4.2→4.1、(高)4.1→4.0 〇中等部生徒　学校行事:4.6→4.7、クラブ活動:4.6→4.5 〇中等部生徒　読書習慣:4.0→3.5、メディアセンター活用:3.6→3.0 〇高校生徒　読書習慣:3.7→3.6、メディアセンター活用:3.4→3.1 【分析】学校行事・クラブ活動は高い評価を維持している。一方、読書習慣とメディアセンターの活用に低下が見られ、授業・探究活動との連携や利用機会の拡充を検討する。 (6)SDGs・地域連携・探究学習 〇生徒　特色ある SDGs 教育:(中)4.2→4.1、(高)4.1→4.1 【分析】持続可能な社会に関する学びは中高とも4点台を維持している。地域連携による実践を継続し、中等部から高校の探究学習へとつながる学びの体系化を図る。 (7)広報活動と情報発信 〇保護者　学校の様子に関する情報発信:(中)4.3→4.3、(高)4.0→4.0 【分析】保護者の評価は安定している。ホームページ、SNS、広報誌等の特性を生かし、学校生活と教育成果を分かりやすく発信するとともに、募集広報の効果を検証する。 (8)安全・安心な教育環境と ICT 活用 〇生徒　情報機器の活用に関する教育:(中)4.4→4.4、(高)4.4→4.3 〇生徒　情報モラル:(中)4.5→4.5、(高)4.5→4.5 【分析】ICT 活用と情報モラルは高水準を維持している。情報機器の適切な活用を進めるとともに、防災・安全管理、教育相談体制を継続的に点検する。	※実施日 2026 年 2 月 14 日(土)13:00 ※参加者 保護者会役員・近隣住民代表 本校学校評価委員 6 名 【委員会で確認した論点】 ①生徒と保護者の学力向上実感の差 ②中等部における学習支援の評価低下 ③東海大学への理解促進 ④読書習慣とメディアセンター利用の改善 ⑤中高連携の実効性と情報共有 ⑥地域連携・探究活動の継続と発展 【学校評価委員会からの意見】 ・上記の論点について確認を行い、特段の異論なく共有された。 ・一方、自由意見として以下3点が挙げられ、今後の検討に向けた意見として共有された。 ① 頭髪検査での指導基準の統一について(中等部保護者より) ・頭髪検査において担当教員によって合否の判断や指導にばらつきがあるとの指摘があった。 ・生徒間に不公平感が生じないよう、指導基準の統一を図るべきではないかとの意見が示された。 (学校側回答) ・現行校則に基づく指導徹底すると共に、現在、他校事例や動向を調査している。 ・教員間で判断に差異が生じている場合、基準の共有と統一を図る必要があるとの説明があった。 ② 学校評価アンケート質問項目の整合性について(高校保護者より) ・保護者アンケート最終項目「本校への受験(入学)を親戚・友人・知人にすすめるか」と、生徒アンケート最終項目「本校に入学して良かったと思っているか」では、質問の観点が異なっている。 ・両項目の整合性を図り、より客観的な分析・検証を得るため、生徒アンケートの設問を「本校への入学を後輩にすすめたいと思うか」といった表現に変更してはどうかとの提案があった。 ③ 卒業生の意見を踏まえた学校評価について(同窓会関係者より) ・同窓会活動に積極的に関わる卒業生がいる一方、学校や同窓会との関わりを望まない卒業生からの声も寄せられているとの報告があった。 ・卒業後の学校に対する多様な意識や評価についても、学校教育の成果を検証する上で参考にしてはどうかとの意見が示された。

3　本年度の取組内容及び自己評価

※中等部生徒による評価点（JS と略）保護者によるものを JP、高校生徒による評価点（SS と略）保護者によるものを SP、中等部教員による評価点（JT と略）、高校教員による評価点（ST と略）。

※肯定的評価の基準は 3.5 以上とし、評点 3.2～3.7 は過去の評点の推移等を見て目標が達成されたかどうかを判断した。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の強化と改善	ア、公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。	ア、教員相互の授業公開・研究授業・授業見学を通じて教科専門的指導力を高める。生徒による授業評価を年 2 回実施する。第 1 回の授業評価に基づき授業改善策を教科会議で検討する。改善策の効果を第 2 回の授業評価で検証する。	ア、 授業への意欲 JS4.1、SS4.2 学力向上実感 JS4.0、SS4.0 学習支援 JS3.7、SS3.9	生徒の学習意欲は高い水準を維持しているが、中等部の学習支援と授業満足度は前年度より低下した。 学力向上の実感を高めるため、授業公開・相互参観や評価方法の改善を進める。
	イ、教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。	イ、アクティブ・ラーニング，アダプティブ・ラーニング，ブレンディッド・ラーニングの具体的導入方法を検討する。同時に必要な教員研修を企画し，授業改善に繋げ，教育力の向上を図る。	イ、授業満足度 JS4.0、SS3.9	
	ウ、探究授業の充実に向けて，他校訪問などを通じて研究を進め、校内の体制を整備する。	ウ、2022 年度より実施している探究授業について探究科を中心として作成した本校独自の教科書を基にシラバス等の検証を行う。	ウ、特色ある教育 JS4.1、SS4.1	
	エ、高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。	エ、外部セミナーや他校の状況を参考に十分な情報を収集し，2023 年度よりの新教育課程を遺漏なく行う。高等学校新学習指導要領における教科指導のあり方を研究し，2023 年度よりの授業のあり方を教科全体で共有する。		
	オ、ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、生徒の情報モラルの醸成に努める。	オ、ICT 教育環境の整備に合わせ、視覚等に訴え、臨場感ある生徒参加型の授業（アクティブラーニング）を軸とする授業改善の研究と実践を進める。	オ、 ICT 活用 JS4.4、SS4.3 情報モラル JS4.5、SS4.5。	ICT 活用は定着しており、情報モラル教育を継続する。
	カ、学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値（資格やスコア取得）を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。	カ、英語は 4 技能養成の方向性は維持し特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。また、学力に見合ったレベルの授業を提供できるように、必要に応じて習熟度授業を実施する。実施に当たってはその効果の検証、修正を行い，より効果的なありかたを検討する。		
	キ、大学入学共通テストにおける新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため低学年次からの指導に反映する。	キ、各教科において定期試験・共通実力テストのレベルと妥当性を検討するとともに、外部模試の出題・誤答分析を行い、授業に還元する。		

２ 進学実績の伸長	ア、授業改善と生徒一人ひとりのレベルに合った授業の展開を通じて，生徒の学力伸長を図り，進路実績の向上へと繋げる。	ア、自己探求ノートを活用し，PDCAサイクルに基づく学習指導を通じた確かな学力の向上、ルーブリックを活用した学校生活の質的向上、生徒主導による3者面談の実施を通じた自己管理能力の向上等を図る。 全学年において外部模試の結果を定期的に分析し、職員会議で周知する。その上で改善を要する点を各教科に発信するなど、PDCAサイクルに乗せて指導の適正化を図る。また，各教科においては模試結果の分析を詳細に行い，入試に対応できる学力向上のための指導に繋げる。	ア、 Gyosei 手帳の活用 JS3.5、SS3.2	手帳の主体的活用を支援する指導方法を共有する。
	イ、東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。	イ、東海大学の体験学習の参加や、大学各学部からの講師招聘を通じて、生徒の関心を高める適正な情報の提供を行う。また、教職員に対しても東海大学理解のための研修会・勉強会を実施する。	イ、 東海大学への理解 JS3.3 保護者への東海大学情報提供 JP4.1、SP4.2	中等部生徒の東海大学理解は前年度から低下した。 大学との接続教育や学部理解の機会を充実させる。
	ウ、大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。	ウ、進路指導部主導で各学期に 1～2 回の悉皆による学年進路検討会を行うとともに、入試制度の変更点、大学の新設などの進路関係情報の共有を図る。英数特進コース・総合進学コース両方について，定期的に教科担当者会議を実施し，生徒一人ひとりの学力状況・進路希望等の共有を通じて，チームとして進路指導を行う。		
３　高いレベルのスポーツ・文化活動の維持	ア、クラブ活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮するとともに、学業と両立しながら活動の活性化を図る。	ア、進学校としてのスクールアイデンティティーを確立するべく、生徒の自己管理能力を育成し文武両道であるという意識を醸成する。学習との両立に向け、顧問は生徒の成績を常に把握し、時間の有効利用を指導する。また自学自習時間確保のため、短時間による効果的な活動内容の検討、及び週 1 回クラブ活動停止日を必ず設ける事の周知を図る。	ア、 校風への満足 JS4.1、SS4.0 クラブ活動 JS4.5 学校行事 JS4.7、SS4.3	学校行事・クラブ活動への評価は高い。 一方、読書習慣とメディアセンター活用には改善課題が見られる。 読書会・授業・探究学習との連携を強める。
	イ、文化的な活動の振興に努め，外部への積極的発信と星河祭の質的向上を図る。	イ、全ての学力の基礎となる読解力・表現力を養うため、朝読書を通じて生徒が読書に積極的に取り組む姿勢を育てる。	イ、 読書習慣 JS3.5、SS3.6 メディアセンター活用 JS3.0、SS3.1	
４　SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携	ア、生徒会・GAFSS を中心として，地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し，学校内で SDGs の達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。	ア、生徒会活動においては、目的や目標を明確にして年間計画を立てる。また、委員会活動も含め、学校行事への協力や校内外の活動により主体的で積極的な活動の推進を図る。特に、生徒会執行部が中心となり、GAFSS を通して、SDGsに積極的に関わる運動を企画運営していく。	ア、 持続可能な社会に関する特色ある教育 JS4.1、SS4.1。	SDGs・探究学習に関する評価は安定している。 中等部の地域連携を継続し、高校の探究活動へ接続する取組を推進する。

５　生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実	ア、入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。 イ、入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。 ウ、学校ホームページ、学校通信などにおいてより的確な情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。 エ、保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。 オ、中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全教員によるより積極的な募集活動を展開する。	アイ、本校の存在意義（ミッション）、学校運営方針、教育活動の現状等を内外に周知するため、学校見学会や説明会の計画的実施を見直し、外部情報媒体、学校ホームページにそれらを掲載する。PR室と各分掌が連携して体験授業（オープンスクール）や本校問題解説会を充実させ、小・中学生が期待する学習内容・方法等を発信する。 ウ、東海大学付属である本校の特色を敏速かつ正確に伝えられるよう、ホームページ上で常に新しい情報を提供する。また、外部の主催する学校説明会や交流活動に組織的に取り組む。 エ、夏期休業期間等を利用した教員・生徒による出身中学校訪問、及び近隣小・中学校への出張授業やボランティア活動を検討する。 オ、学業及びスポーツ奨学生制度を有効活用する。また小中学生向けのスポーツ教室等の開催を検討する。	ウ、 学校の様子に関する情報発信 JP4.3、SP4.0	保護者の情報発信への評価は高い水準を維持している。 媒体ごとの発信内容を工夫し、募集広報の効果を継続的に検証する。
６　環境・安全・健康に配慮した学校づくり	ア、同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。 イ、防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価（学校評価）を行う。 ウ、教育活動における事故を未然に防ぐために細心の注意を払う。万一事故が発生した場合は，文科省「学校事故対応に関する指針」に基づき，適切に対応する。 エ、教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活が送れるようにする。 オ、教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。	ア、本校花壇の維持、校内緑化等の整備維持計画を立て実践する。さらに、校内の環境維持活動を全校的に行う。 イ・ウ、地震・洪水など自然災害などを想定した防災災害対策安全管理マニュアルを作成するため、有事の際の避難運営など環境計画を策定し、内容についての周知、安全教育に努める。また防災防犯計画・学校保健計画を策定し、その実施状況を外部評価（学校評価）で点検する。 エ、生徒の精神的な安定のため、カウンセラーと連携を密にし、教育相談機能を充実させる。 オ、2022 年度より本格実施した一年単位の変形労働時間制のより効果的な運用に努める。業務削減による長時間労働の改善を図るため、教職員からの意見を精査の上、業務改善・効率化につながる見直しを行い、具体案を提案する。	ア、 ICT 活用 JS4.4、SS4.3。 情報モラル JS4.5、SS4.5。	ICT 活用・情報モラルの評価は引き続き高い。 安全管理・緊急連絡体制・教育相談等についても定期的な点検と改善を継続する。